



秋も深まり

読書週間 真っ最中です

44号でもお知らせしましたが、10月27日（日）から『読書週間』が始まっています。（11月9日迄）

全国学校図書館協議会が実施した「第59回学校読書調査」によると

小学校就学前（入学前）に、家庭でよく読み聞かせをもらった子どもほど、

今現在の読書量が多く、「不読率」（一ヶ月間に一冊も読まなかった人の割合）は低い結果だったそうです。

「小学校入学前の読み聞かせが、よく本を読む子を育てていること」が調査結果のデータから読み取れます。



小学校就学前の読み聞かせの体験と現在の読書量（今年の5月）の関係

よく読んでもらった・・・16冊以上（24％）

時々読んでもらった・・・16冊以上（14％）

あまり読んでもらわなかった・・・16冊以上（12％）

※よく読んでもらっていた子ほど、現在の読書量が多い子が多い。



また、『家族に本を読んでもらうことが好きだった』という小学生は57％もいるそうです。

幼児の頃に本の楽しさ、読書の楽しさを知ると、成長してから読書が身近なものになっているようです。

これはある意味、当然のことかもしれません。例えば、小さい子どもの頃、何かのスポーツを経験し、楽しいと感じた子どもは、きっと、大人になっても、そのスポーツを楽しいと感じ、やってみようという意欲を持ちやすいのではないのでしょうか。

みなさんも子どもの頃、寝る前のわずかな時間、絵本を読んでもらった経験があるでしょう。そして親になってからは、子どもを寝かしつける時、読んであげたりした思い出があるのではないのでしょうか。

（疲れているせいか、読んでいる途中で、自分までついついとうとうとして、寝てしまったりしますよね）

そんな時、子どもは本の中の世界に旅をし、その内容にワクワクしたり、ドキドキしたりするはずです。本や読書の楽しさを感じた子どもが多いと思います。更に、その時同時に、温かくて、なんだか心がホッとする親や家族の温かさや優しさ、愛情をも感じたはずです。親子、家族の絆が深まるひと時でもあります。そんな気持ちと思い出が読書に対する印象を更に良いものにするとおもいます。

『読み聞かせ』が養う力



読書と物事に対する子どもの意欲の関係では、「読書数が多い子どもは、文章を書いたり、図鑑や辞書で調べたりするのが好きで、わからないことがあったら調べたい」という答えが多かったそうです。また、読んだ冊数が多くなるほど、作文や感想文、日記など文章を書くことが好きと答える割合も多い結果だったそうです。

何度もお伝えしていますが、本校でも読書を奨励し、読書タイムの設定やボランティアの方々の

協力を得た『読み聞かせ』などに取り組んでいます。

「小学校に入学してからでは遅い」なんてことはもちろんありません。どうぞ、ご家庭におかれましても、子ども達に読書を進め、5分でも10分でもいいので、「読み聞かせ」にも挑戦してみてはいかがでしょうか。



ある年の5月一ヶ月間の平均読書量

小学生・・・10.1冊

中学生・・・4.1冊

高校生・・・1.7冊

*高校生は受験勉強等で時間がないので
しょうね